

# 救急初期対応研修指導案

学校管理下における事故・急病時の初期対応シミュレーション ～ 緊急度評価とチーム連携 ～

対象	日時・場所	所要時間	班構成
全教職員（養護教諭・一般教諭・事務職員・部活動顧問等）	令和8年5月22日（金） 体育館・多目的室	45分（30分短縮版あり）	1班 6～7名

## 研修目標

関心・意欲・態度	学校安全への当事者意識を高め、緊急時にもパニックに陥らず「楽しく前向きに」学び合う姿勢を持つ。
思考・判断・表現	映像・シミュレーションを通じ、傷病者の緊急度を迅速に判断し、組織として動くための課題をメタ認知できる。
技術・組織連携	2回の反復演習を通じて役割分担を明確にし、自校の救急対応計画（EAP）に即した洗練されたチーム連携を実践できる。

## 班内役割分担（挙手・話し合いで決定 専用カード不要）

役割	主な担当業務
現場リーダー 1名	全体指揮・傷病者観察・声かけ・周囲への処置指示
補助・救護担当 1～2名	リーダーサポート・応急処置（エピペン・冷却・体位管理等）の実践
通報・連絡担当 1名	119番通報（消防指令センターへの連絡）・職員室報告・救急隊の誘導配置
記録・タイムキーパー 1名	発生時刻・バイタルの変化・処置内容（エピペン使用時刻等）のメモ、演習の動画撮影
周辺管理 1名	他の児童生徒を遠ざける・保護者連絡の準備・救急箱/AED搬送

## 本時の展開（45分）

時間	学習活動	区分	内容	指導上の留意点
5分	① テーマ説明	導入	本日のテーマ（アナフィラキシー・頭部外傷・熱中症等）を提示。	「試験ではなく楽しく学ぶ場」であることを強調し、心理的安全性を確保。座学は省き実践に特化することを伝える。
5分	② 役割分担・作戦会議	展開	班内で各役割をすばやく決定し、短い作戦タイムを設ける。	ホワイトボードに役割一覧を大きく書き出し、視覚的に決定を促す。
5分	③ 演習1回目	展開	基本シナリオを実施。あえて混乱（わちゃわちゃ状態）を経験させる。	指導者は介入せず見守る。記録係にスマホで動画撮影させる。
10分	④ 振り返り1回目	展開	動画を見ながらグループワーク。「どこで迷ったか」「連携の課題」を議論し課題を抽出する。	「長めの10分」を確保。正解の押しつけではなく受講者主体の議論をファシリテートする。
5分	⑤ 演習2回目	展開	同シナリオ（または状況を少し進めた段階）で反復演習。議論した改善点の実践に集中させる。	役割は変更しない。改善点（情報共有方法等）の実践に絞る。
10分	⑥ 振り返り2回目	展開	2回目の変化（洗練度・スピード）を振り返り、自校 EAP への反映点を話し合う。	1回目からの成長を強く賞賛し、自己効力感の底上げを図る。
5分	⑦ 総括・まとめ	まとめ	理想的な判断プロセスの要点を総括。模範対応動画（日体大）があれば上映。	組織連携の重要性をフィードバックし締めくくる。

【30分バージョンへの変更（継続・リピーター向け）】 演習時間（5分×2回）を担保したまま、振り返り①②をそれぞれ5分に短縮。指導者は「次の演習での改善策1点」に的を絞るようテンポよく指示し、ハイスピード型コースとして展開する。

## 評価基準

観点	評価内容	評価方法
知識・理解	役割分担と迅速な EAP 連動の必要性を理解できたか。	振り返りシート・発言より
技能・表現	2 回目の演習でリーダー指示のもと、通報・処置が 1 回目よりスムーズに行えたか。	行動観察より
関心・意欲・態度	圧迫感なく、終始前向きかつ楽しくチーム演習に参加できたか。	事後アンケートより